

藻塩焼神事

この古くから伝わる塩づくりの儀式は、年に一度、鹽竈神社のふもとの門前町地域にある御釜神社で行われます。1979 年に宮城県の無形民俗文化財に指定された藻塩焼神事は、同種の神事としては日本で唯一現在でも行われているものです。

藻塩焼神事は 7 月 4 日から 6 日までの 3 日間にわたって執り行われます。この神事は海水から塩を作る方法を人々に伝授した神、鹽土老翁神（シオツチノオジノカミ）に捧げられます。

初日は、近くの七ヶ浜地域にある鼻節神社の湾で神職が海から水と海藻を採取します。

二日目には、神職は満潮時に船で松島湾に出て水を汲みます。その後、神社内に置かれた 4 つの鉄釜の水を入れ替えます。1636 年の記録には、この水の色は近い未来の大きな変化や危険の訪れを告げているかもしれないと書かれています。

最終日には、神職は大きな平釜を用意し、その中に厚い海藻の層を通した海水を流し込みます。釜を火にかけた後は、水が蒸発するまでかき混ぜ続けます。こうしてできた塩は御釜神社と鹽竈神社の神々に奉納されます。

鹽竈神社博物館の 2 階では、この神事の様子を収めた映像を見られるほか、塩竈の塩づくりの歴史をより深く知ることができます。